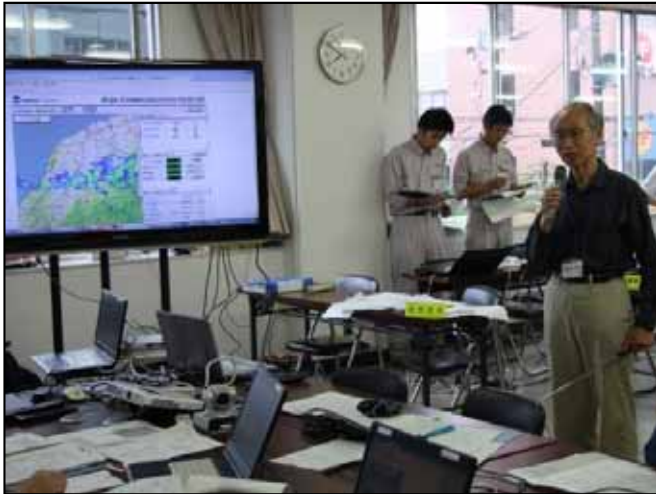


気象庁では、「気象予報士等を活用した地方自治体における気象情報活用支援モデル事業」の実施や「地域における気象防災業務のあり方検討会」の開催などによって地域の気象防災に一層資する取組や気象台の業務の方向性を模索

気象予報士等を活用した地方自治体における気象情報活用支援モデル事業(平成28年度)



気象庁の発する情報をその背景から読み解くことができる気象台OB等を災害対応の最前線である市町村に派遣

高度な気象予測情報を提供し、災害時に連携が必要でありながらも遠い存在に止まりがちな気象庁と市町村との関係におけるひとつの方向性を示す取組

平成29年度三条市単独事業

6月から9月までの出水期に地域の気象台に長年勤務されてきた方を防災気象アドバイザーとして雇用(フルタイム勤務)

災害対策本部における避難情報の発令等に関するアドバイスや職員に対する防災気象情報の読み解き方の指導に加え、地域の気象災害に対する関心や知識を高めるための出前講座等を実施

それぞれの社会的役割に徹しつつ、非常時に有機的につながる体制を構築